6 基本方針

1 計画の基本方針

1　地域公共交通の基本理念

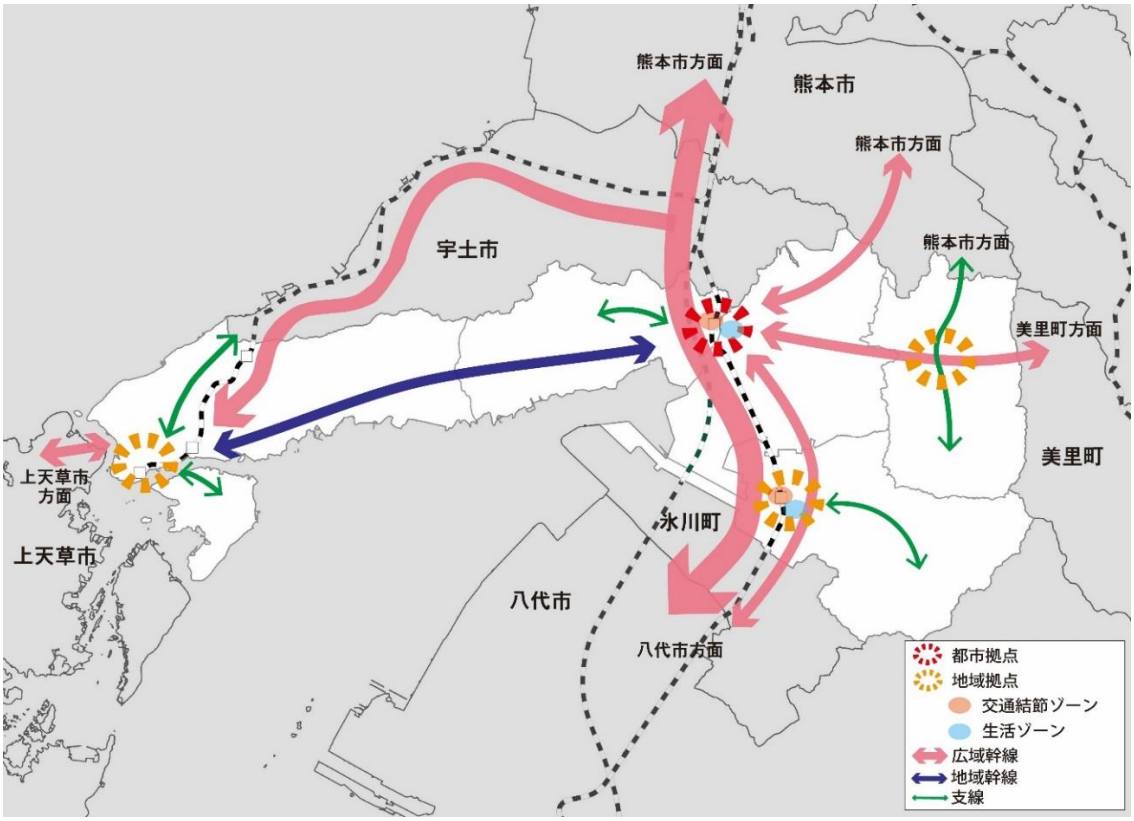
本市では限られた交通資源の中で、既存の交通モードに加え、新たなモビリティや運行形態の導入、さらには他分野との連携強化を図ることで、地域全体で相互に支え合う公共交通体系を構築し、持続可能性の向上を目指すことが重要であると考えます。

上記を踏まえ、以下の基本理念を設定します。

「多様な交通モードを連携し未来につなぐ」

2　地域公共交通の将来像

本市では限られた交通資源の中で、都市マスタープランが目指す都市構造の実現に向け、拠点及び地域公共交通ネットワークの考え方を以下のように設定します。



▲地域公共交通の将来像

●拠点・地域公共交通ネットワークの考え方

▼地域公共交通の役割

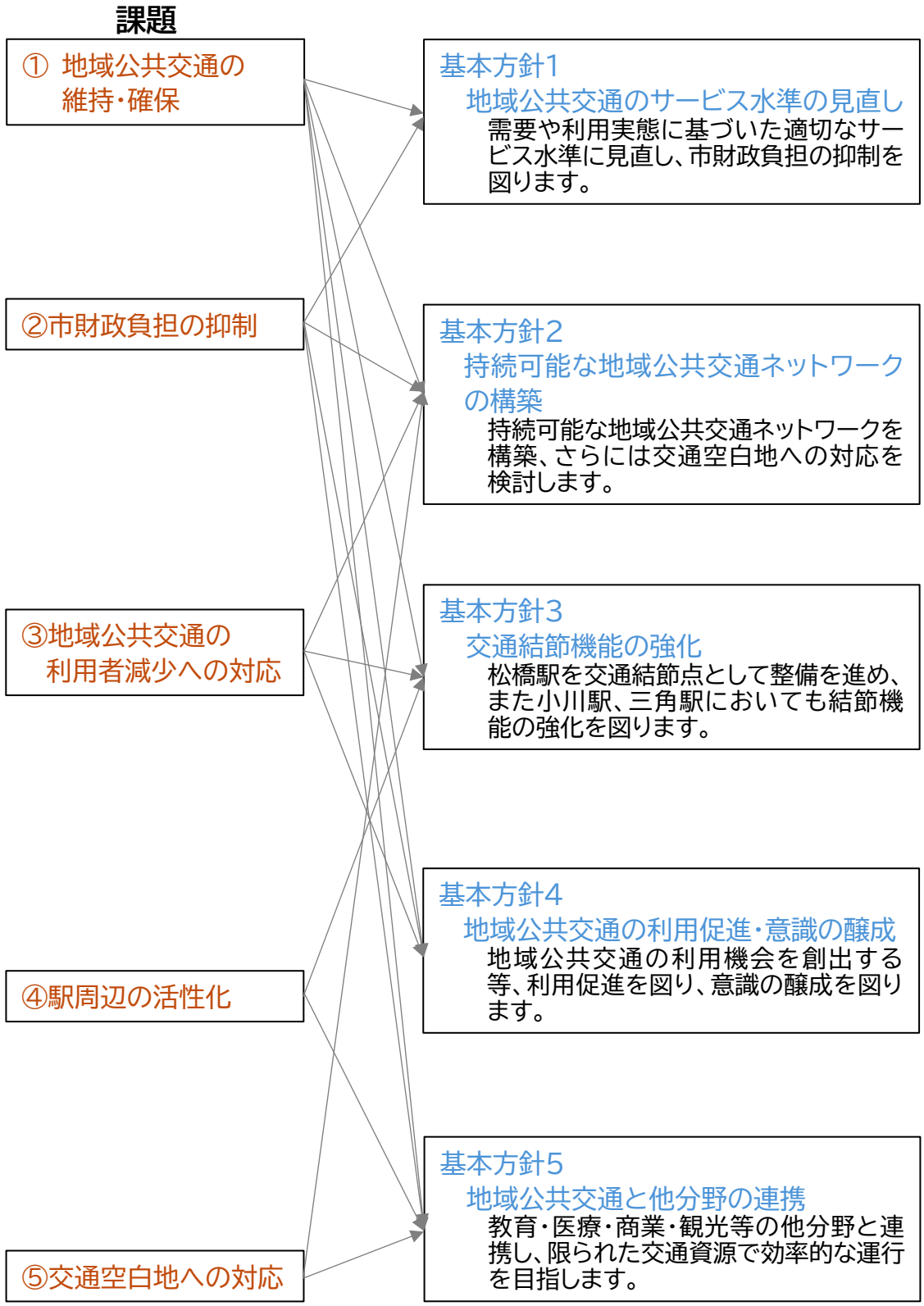
位置づけ	交通モード	役割	系統等	確保・維持策の方向性
広域幹線 ⟷	鉄道、路線バス	宇城市と周辺市町を結ぶ広域的な移動を担う	鉄道	交通事業者と協議の上、一定以上の水準を確保する
			路線バス（松橋駅～砥用中央、宇土本町２丁目～砥用中央）	地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、交通事業者と協議の上、一定以上の水準を確保する
			路線バス（松橋産交～八代産交、宇土駅前～松橋産交、三角産交（三角防災拠点センター）～さんぱーる、松橋産交～八代市役所前、松橋産交（松橋駅）～熊本市方面（桜町 BT 等））	交通事業者と協議の上、一定以上の水準を確保し、持続可能な運行を目指す
地域幹線 ⟷	路線バス、乗合タクシー、タクシー	各地域と拠点を結ぶ役割を担う	路線バス（松橋産交～三角産交、桜町 BT～段鶴） 乗合タクシー タクシー	利用促進等により一定以上の需要を確保するとともに、効率的な運行を目指す
支線 ⟷				

▼拠点の考え方

拠点分類	地域	ゾーン	交通結節	生活	位置づけ
都市拠点	松橋駅・宇城市役所を含む周辺の地域	松橋駅周辺	○		広域幹線と地域間幹線の鉄道・バス路線を結節し、市内外の地域公共交通のハブとしての役割を担う拠点。
		宇城市役所周辺		○	市役所を含む行政施設や商業・医療施設等が立地し、市民の生活の中心となる拠点。
地域拠点	小川駅・イオンモール宇城を含む周辺の地域	小川駅周辺	○		広域幹線の鉄道・バス路線、もしくはコミュニティバスを結節する拠点。
		イオンモール宇城周辺		○	市内外から来訪者が多く、商業を中心に生活の中心となる拠点。
	三角駅含む周辺の地域	-	○	○	広域幹線と地域間幹線の鉄道・バス路線を結節し、宇城市内、もしくは上天草方面の結節を担う拠点。また三角地域の生活の中心としての役割を担う。
	豊野支所を含む周辺の地域	-		○	豊野地域の生活の中心としての役割を担う。

3　基本方針

地域公共交通の将来像の実現に向け、５つの基本方針を設定します。



2 数値指標及び目標値

本計画の目標の達成状況を評価するために、数値指標と目標値を以下の通り設定します。

基本方針	数値指標	現状値（R6 年）	目標値
①地域公共交通のサービス水準の見直し	路線バスに関する財政負担額	128,785 千円/年	100,000 千円/年
	乗合タクシーの収支率※	22.3%	22.0%
②持続可能な地域公共交通ネットワークの構築	路線バスの利用者数	約 672 千人/年	672 千人/年
	乗合タクシーの利用者数※	3,658 人/年	4,500 人/年
③交通結節機能の強化	乗り換え拠点の利用者数※	松橋駅：1,633 人/日 小川駅：1,083 人/日 三角駅：314 人/日	松橋駅：1,700 人/日 小川駅：1,000 人/日 三角駅：300 人/日
④地域公共交通の利用促進・意識の醸成	地域公共交通の利用率	13.5%	18.0%
	乗合タクシーの新規利用者数※	76 人/年	80 人/年
	地域公共交通の利用促進策の実施回数	2 回	2 回
⑤地域公共交通と他分野の連携	他分野と連携・協働による取り組み	0 件	2 件

※乗合タクシーの収支率、乗合タクシーの利用者数、乗り換え拠点の利用者数、乗合タクシーの新規利用者数は前年度実績で評価

数値指標	評価方法		目標達成のために必要なこと
路線バスに関する財政負担額	路線バスに対する欠損補助額	市資料	運転手確保に向けた給与水準の向上や燃料費の高騰等、今後も運行経費は増加することが想定される中で、路線再編に伴う実車走行キロを削減することで、補助金額の削減を目指します。
乗合タクシーの収支率※	運賃収入/経費×100	市資料	乗合タクシーの利用者数増加を目標とする中で、乗合率を向上させることで、収支率の維持を目指します。
路線バスの利用者数	路線バスの年間利用者数	交通事業者資料	人口減少が見込まれる中で、路線バスの利用者数の現状維持を目指します。
乗合タクシーの利用者数※	乗合タクシーの年間利用者数	市資料	現在運行している４地区での利用促進を図るとともに、交通空白地において新規導入も目指すことで、利用人数の向上を目指します。
乗り換え拠点の利用者数※	駅別乗車人員	九州旅客鉄道株式会社HP	人口減少が見込まれる中で、駅別乗車人員の現状維持を目指します。
地域公共交通の利用率	（居住地が宇城市内かつ、日常生活で月に数日以上公共交通を利用している人数）/（居住地が宇城市内の人数）×100	市民アンケート調査	地区別の回答で、最も割合が高い不知火町の割合（18.4%）を目標とし、利用率向上を目指します。
乗合タクシーの新規利用者数	利用者名簿から１年間に追加された人数	市資料	高齢人口が減少することが想定される中で、現状と同程度の新規利用者の獲得を目指します。
地域公共交通の利用促進策の実施回数	地域公共交通の利用促進に関わる施策を実施した回数	市資料	実施している利用促進策を引き続き実施することとし、現状維持を目指します。
他分野と連携・協働による取り組み	商業・観光・医療分野等との連携・協働による取り組み	市資料	新たに２件の取り組みを実施することを目指します。